福井大学留学生センターニュース

ここねっと

2002 Autumn Vol.3

福井大学の元留学生と
留学生のみなさんへのメッセージ

福井大学長
児嶋　眞平

福井大学で学んだことのある元留学生のみなさん、こんにちは。世界の国々で、それぞれの分野でご活躍のことと思います。

福井大学も現在たいへん活気に溢れています。2年前に学生寮の半分が新築され、今年度には、古い残りの学生寮がすべて改修されますので、ずいぶんきれいな学生寮になります。大学キャンパスの中央部には、13階建ての総合研究棟Ⅰ(9000㎡)が今年7月に完成して、美しいシンボルタワーとして聳えています。その東側には、6階建ての総合研究棟Ⅱ(2630㎡)が3月に完成しました。また、事務局棟の隣に創立50周年記念館のアカデミーホール(600㎡)が5月にできあがりました。さらに工学部の古い研究棟の約10,000㎡が現在全面的な改修工事中です。

建物だけが良くなったのではありません。今年4月には、工学研究科にファイバーアメニテイ工学専攻という独立専攻ができました。また、1999年に設置した工学部知能システム工学科の上に、工学研究科知能システム専攻が2003年4月にできる予定です。

1999年に教育学部を改組して、教育地域科学部を設置しました。大学院はまだ教育学研究科のままですが、ここでも現職の学校教員の再教育のための公開講座が、大学院授業科目として、3年前から始められました。教育地域科学部も工学部も頑張っています。

福井大学では、短期留学プログラム（Fukui University Student Exchange Program: FUSEP）と、工学研究科国際総合特別コース（博士課程）（Global Engineering Program for International Students: GEPIS）が昨年10月に始まりました。これらの2つのプログラムで、それぞれ国費留学生が6名ないし7名増えましたので、昨年10月には留学生数は188名に、今年10月には、ようやく200名に達しました。さらに、アジア諸国のめざましい経済発展で、今後は私費留

学生も増えてくると予想されますので、福井大学の留学生はもっと増えてくるでしょう。学内措置として、2年前に「留学生センター」をつくり、狭いながらも日本語研修と留学生に対する相談と助言のためのスペースを昨年春につくりました。来年2003年4月に、福井大学の「留学生センター」を文部科学省は正式に認めてくれる予定です。そうなると、留学生を支援するサービスをもっと良くすることができます。

昨年9月に「福井大学国際コングレス2002」を開催しました。その「留学生国際フォーラム」で留学生と地域社会との関係について議論しました。たいへん充実した内容でした。来年2003年にも「留学生国際フォーラム」をもっと賑やかに開催する予定です。ぜひ多くの元留学生の皆さんに、福井大学を再び訪れてもらい、大いに語り合ってもらいたいと願っています。

福井大学の留学生であった皆さんの名簿作成や、この「こころねっと」の刊行と郵送に努力していただいている中島清教授の懸命なご努力に感謝しますとともに、元留学生の皆さんの間でネットワークが拡がって、相互に連携協力する機会が増えていくことを期待しています。

アカデミーホール

総合研究棟Ⅱ

留学生と地域社会の相互交流活動推進に向けて

福井大学工学部教授
中島　清

初めに

福井大学最初の留学生国際フォーラム「留学生と地域社会の相互交流活動推進に向けて」を2002年9月12日13：30～16：40実施した。帰国留学生3名、在学留学生1名のほか、福井商工会議所国際経済課小林係長、福井県国際交流協会情報相談コーナー高嶋相談員、丸岡町鳴鹿小学校伊戸校長にパネラーをお願いした。出席者は117名で、内訳は留学生関係団体・ボランティア等市民（19）、小学校校長を中心とする教育関係者（15）、産業界（6）、福井大学教職員（28）、留学生（41）、日本人学生（8）。パネラーの発表後も質疑応答が活発に行われ、予定時間を大幅に延長して議論が続いた。尚、帰国留学生パネラーは朱紅西安理工大学計算機学院教授（中国）、Dr. Iris Wieczorekアジア問題研究所研究員（ドイツ）、Ms. Anitawati Mohd Lokmanマラ工科大学シャアラーム校情報工学部講師（マレイシア）にお願いしたが、Anitawati氏は急用のため出席できなかった。また、在学留学生としては福井大学工学研究科博士後期課程学生Jose Francisco Abarca Montaya氏にお願いした。

フォーラムの趣旨と目的

従来、交流パーティ、バザー、ホームステイ、更には各種奨学金等を通して、地域社会は留学生を支援して来た。そして、それは留学生の教育、研究、生活を豊かなものにする上で大いに貢献している。他方、留学生には地域社会の国際化、産業発展に貢献するという役割も期待されている。社会活動においてはギブアンドテイクの双方向ベクトルが持続・満足の必須条件である。同時に、留学生は地域社会活動に積極的に参画して初めて、日本の文化社会をより深く理解し、その過程で社会貢献への深い満足感が得られるという側面がある。

本フォーラムでは、相互交流・支援活動がこれまでどのようになされて来たのか、これからどのように展開したらいいのか、その双方向の役割を明確にし、更には具体的活動を特定することを目的とした。理論よりも実際の行動を主眼とし、実践直結を旨とした。従って、今後の具体的活動展開においては関係機関及び団体との連携が重要と考え、チラシを2000部印刷し、県内小中高全校（340）に送付すると同時に、福井県国際交流協会、福井商工会議所のご協力を得ながら、教育界、財界、市民全体に出席を呼びかけた。

福井大学における双方向支援の現状

福井大学には現在約200名の留学生が在学しているが、相互交流支援活動の対象を①日本人学生②地域市民社会③地域教育界④地域産業界、そして⑤留学生相互を軸として推進している。①では、「お弁当会」「国際交流ラウンジ」等の定例活動、「国際交流キャンプ」等単発的行事を通して異文化理解、相互言語学習等の推進を図っている。その中から、具体的な成果として相互言語学習ペアが多数誕生している。また、チューター制度によるペアは100組。②では、留学生が太極拳講座、中国語・スペイン語講座、韓国料理教室等を開いたり、FMラジオで各国語放送を行ったりしている。③では、現在10名の留学生が小学校10校に英語教育助手として年間契約で毎週教壇に立っているほか、「留学生を6名派遣してほしい」「小学生を大学に引率するので、留学生8名と交流させてほしい」等の話が絶えない。④では、商工会議所・JETRO・業界団体等からの通訳要請、個別企業からの社員派遣前中国語研修講師派遣要請、更には求人募集の仲介、業界との就職懇談会開催等がある。⑤では、ラウンジでの日常的な交流の他にビデオショウ、スキー、遠足等があり、更には帰国留学生とのネットワークを視野にいれた留学生同窓会の設立（2001年）と、年2回のネットワーク誌「こころねっと」発刊、その留学生編集委員会（12名）の役割が大きい。年2回発行の「こころねっと」は3000部印刷して、関係機関、団体、個人に配布すると同時に、帰国留学生500名にも送付しているが、①～⑤の各軸を横断的に繋ぐネットワークの機能を期待している。

パネラーからの提言及び指摘事項

朱虹さん

まず、帰国留学生からは、指導教官の「相手を理解しようとする気配り」と指導経験蓄積の大切さ、留学生交換時における相互意思疎通、つまり、留学の目的、希望等を送り手、受け手が正確に理解する

ことの必要性が指摘された。そして、留学生に接する心構え等を学生チューターに指導してほしい、また、環境保全プロジェクト等への留学生の参加、グローバル化時代のキー能力である異文化コミュニケーション能力の涵養及び異文化交流推進のためにホームページ、メール、チャット等を活用した「インターネット講義室」が提言された。

ホセさん

ヴィーツォレックさん

日本側からは留学生との相互交流の現状が報告された。また、相互交流への具体的な問合せ・要請が急増する中で、留学生国際交流ボランティア人材登録制度の確立による対応、そして、それを調整する国際交流コーディネーターの必要性が提言された。産業界からはグローバル化における貴重な人材としての期待、通訳・翻訳バンクの創設が表明された。教育界からは丸岡町における英語教育助手制度の発足の経緯、具体的な成果が報告された。

フォーラムで議論された内容

小学校における英語以外の中国語等多言語教育が議論され、推進する意見が大勢であった。交流の形態も議論され、小学校派遣と大学訪問双方推進が確認された。実施前の調整の大切さ、子供達の主体性を考慮した企画の重要性が議論された。

環境保全プロジェクトの具体例や関わり方が議論され、現状把握と参画手法検討の必要性が確認された。国際人の定義、日本人学生の交流意識高揚の必要性も議論された。会場参加者からも交流の具体例が多数報告され、各機関及び関係者の連携を確認して会議を終えた。

今後の展開

フォーラムの提言を一つ一つ実施する予定である。早速10月初旬チューター100名に第1回説明会を実施した。次に「地域社会→留学生」「留学生→地域社会」それぞれの活動のどれに参加したいのかを登録する「地域社会との相互交流活動参加登録様式」を作成配布し、すでに留学生80名の登録を得て、フォーラム後急増している交流要請に対応する体制を整えつつある。同時に、従来留学生20名ほどに集中していた活動を全留学生に拡大する。活動における多様性、地理的人的範囲の拡大が今後の展開の軸である。

今後の展開の課題としては交流時における参加者の意識作用があると考えている。フォーラム前に実施したアンケートでわかったことであるが、留学生支援目的で企画した行事を、留学生側は地域社会支援として捉える、つまり、交流支援行事参加者に双方向の支援意識ベクトルの存在があるようだ。従って、交流は一方通行の支援でないということを理解し、意識してもらわなければならない。それが、相互交流支援事業持続・満足の鍵となるであろう。

パネラー、司会他一同

フォーラム運営協力者一同

Life in Fukui

福井大学大学院工学研究科博士後期課程

Mohammad Saifur Rahman (Bangladesh)

It has been quite a long time since I came to Fukui City to study Materials Science and Engineering at Fukui University under Japanese government scholarship program. I can clearly remember it was a sunny cool day in middle October 1997 when I arrived to this 'one of the most livable' city in Japan. That very day of my arrival in Fukui, I spent a busy day meeting Professor Dr. Kodaira and supervising Professor Dr. Hashimoto who took me to foreign students section of the university, Foreign Students House and City Council office for necessary formalities and documentations. Fukui is rather a small city with less than 3% of population of my birthplace, Dhaka. Fukui is surrounded by green forests, lush mountains and Sea of Japan coastline and is being inhabited by warm and friendly people having rich and ancient traditions. Here I could feel cleaner air, fewer crowds in the streets, more personal safety, more gracious and relaxed atmosphere and a blend of modern life style in proximity with nature compared to Dhaka.

As the days passed winter started to make its appearance. It was my first experience with extremes of nature. Chilly winter reminded me of my warm and tropical home city where the mercury rarely falls below 7℃. In one fine morning, I found myself lying in the bed from where I could see the outside completely covered with white snow! Wow! I got so excited that I was looking around as much as possible from my balcony to enjoy this 'new look' of my neighborhood. I was wondering if it was a dream or real. The first snowfall in my life was so amazing that remembering it is always thrilling and exciting to me. Some readers might find it exaggerated but my experiences in Fukui would be incomplete without mentioning it. I got used to this new environment slowly and snowfall became almost a daily schedule for me. However, it was becoming much heavier day by day and was a painful experience with chilly wind and slippery streets. On the other hand in summer Fukui is really as hot and humid as Dhaka.

While I started to attend Japanese courses in the faculty of education, I was not so happy with the difficulty of learning Japanese and the absence of any English explanation in the class. Many foreign students with poor level of Japanese faced the same problems as me. Fortunately, with the introduction of a few Japanese language courses taught in English and availability of new bilingual teachers in recent days, students do not have to face these kind of difficulties anymore. I regret arriving in Japan without much knowledge of Japanese language and proper understanding of the mindset of Japanese people. I would suggest prospective students to consider it seriously and to invest some time in taking courses of Japanese conversation and improving their Japanese proficiency as much as possible before coming. I am sure this would pay manifold dividends in return during their student life in Japan.

As I got myself acquainted to lifestyle in Fukui, I could make out time to know people and environment around me. During the weekends, while I took part in different activities of the Fukui International Association, I also visited different sightseeing places in Fukui. The more I moved around, the more I found Fukui as a city in harmony with nature. The city planners did their best to preserve the beauties of nature and not to spoil it during many development projects, which some may call excessive and might question their necessity. When I go out of Fukui city I can see the beautiful landscape that reminds me of my native village with many rice fields and clustered houses surrounding them. Whenever I got a holiday I tried to visit as many places as possible to know this island country and its rich culture and heritage. Fukui University arranges study trips to selective places in different parts of the country for foreign students that proves to be extremely beneficial. I have taken part in this program a few times that took me to historical places like the Atom Bomb Dome, Peace Park and famous Atom Bomb Museum in Hiroshima, Golden and Silver Temples in Kyoto; tourist attractions like Disney Sea, Imperial palace and other attractions in Tokyo, Universal Studio Japan in Osaka, Northern Japanese Alps mountain range between Toyama and Nagano, the limestone caves called Akiyosidai in Yamaguchi, and Shikoku.

Studying in Fukui University for me is not only a chance to be exposed to the world class research environment but also to know how people of one of the most advanced nations still preserve and reflect their ancient past through thousands of temples and shrines, through their expressions, rituals and mindset, and to learn how they rebuilt Japan through extensive hard work and high spirit from the rubbles after the second world war. While it is time to finish this article and turn to my study table to continue writing my doctoral thesis, I would like to conclude here with thanks to the Editor of Kokoro Net for providing me with an opportunity to share my experiences in Fukui with all of you.

"WHEN IN ROME, DO AS THE ROMANS" WHEN IN JAPAN.....

福井大学大学院工学研究科博士後期課程
Ehrhardt Anelise (Brazil)

Living away from one's country can be really an interesting and unforgettable experience, but at the same time it carries very important changes in our lives. To start a regular life away from home means to accept another type of society, culture and rules into our daily life. Thinking about that, "A GUIDEBOOK FOR FOREIGN RESIDENTS" was published to help in our daily life in Fukui Prefecture.

"A GUIDEBOOK FOR FOREIGN RESIDENTS" is available for free at Fukui International Association (FIA) and at Fukui City Hall. The guide can be found in Chinese, Portuguese, English and Japanese. As a regular foreign resident, we just should present the Alien Card in order to get it.

The Guidebook is about:

- Procedures for staying in Japan
- In case of emergency
- Life style information
- Traffic rules and driver's license
- Basic knowledge of working in Japan.
- Appendix with several useful telephone numbers as Municipal Offices, Police Stations, Libraries, Museums, Events Guides through the year,
- Facilities, Campgrounds, Public Hotels, Transportation, List of Hospitals and Spoken-languages doctors and dentists available

and so on.

Also, at FIA we can find cultural and daily life maps of Fukui Prefecture in Chinese, Portuguese, English and Japanese, and an Appendix that gather various facilities telephone numbers available in Fukui Prefecture.

Living far from home, even for a short period of time, can be really hard at the beginning. We have to remember that all changes are difficult, but it is necessary to go through them to build up a better character. Most important of all is to realize that Japanese people are friendly and they go out of their way to help us to appreciate everything they have.

留学生とのお話会

福井大学生協SoSen部
敷山喜彦（福井大学工学部物理工学科）

福井大学生協SoSen部では、留学生と福井大学に在学中の日本人との交流を深めるため、「留学生とのお話会」というものを開催しています。お菓子を食べながら、自由に雑談してもらい、相互理解を図るというものです。毎回、副テーマというものが挙げられ、それに沿ってお話ししてもらいますが、基本的にはフリートークなので、何を話してもらっても結構です。留学生にとっては、日本語の勉強や、日本文化を知る機会にもなり、日本人にとっては、外国語の勉強や、文化の違いを知ることができます。それと同時に、交流を深めることもできるので、多くの皆さんに是非参加してもらいたいと思います。

日　　時

毎月第1，3週の水曜日　　18：00～19：00ごろ

場　　所

福井大学留学生センターラウンジ

予定参加者

福井大学日本人学生
福井大学留学生

進行内容

初めは英語のみで会話をしてもらい、そのあと日本語のみの会話をしてもらいます。終了予定時刻は19：00ごろですが、19：30まで延長可能です

参加者の感想

・色々な国のことが聞けて良かった。何より、言語の違いには驚いた。初めてモンゴル語を目の当たりにしたとき、本当にカルチャーショックを受けた。改めて、世界の広さを実感したような気がする。

・自分は、英語が全然話せないので、参加する前は、どう話そうか迷っていたが、参加してみると、トークの中で使われる英語は、ほとんど易しい単語ばかりで、それほど心配するほどのものでもなかったです。このお話会に続けて参加することで、普通に英語で会話できるようになると思いました。
・全然堅苦しいものでなく、お菓子を食べながら、本当に雑談って感じだったので良かった。これなら、また次参加しようって気になれる。
・正直に言って、時々トークに詰まるときがあるんです（^_^;）でも、副テーマが挙げられているおかげで、詰まったときは、そのテーマに沿った会話ができたので、良かったです（^▽^）今後は、副テーマに頼らない会話ができるようになりたいです。

日本人から見た留学生

福井大学工学部建築建設工学科
寺崎寛章

私が留学生と初めて会った時から、もうすぐ一年が経とうとしている。あの時の印象を今も覚えている。それは純粋に『強さ』であったと思う。話せば話すほど勉学面のみならず生活の細部に至るまでそれが表れていた。

およそ日本人の八割は環境に依存している。少なからず私も例外ではないが、多くを望まなければ何不自由なく与えられている我々にとって、気づかぬことが多い。「安全」などは言うまでもないが、「衣」「食」「住」の生活の保証の下で「当たり前」としていることに彼らは必死である。経済面の問題だけではなく、この日本に来ることさえも多くの犠牲の上に成り立っていることが多い。ある者は恋人を捨て、妻を置き去りにして、ある者は家族を犠牲にして、日本人の感覚で一千万強の借金を抱えてこの日本に来ている者もいる。日本においても社会に出たならば、それほど驚くべき事ではないかもしれない。しかし、大学生のレベルで日本と比較をしてみるとどうだろうか。やはり賭けるものが違うせいか、強いように思われる。いや、確かに強い。この場合の『強さ』とは「生きる強さ」ひいては「生き残る強さ」と思っている。“大げさだ”、“言い過ぎだ”と言えるかもしれない。“偏見だ”と言われてもあえて否定はしない。

比較に関して、決して日本人が脆弱とは言わない。しかし極論を言えば留学生に比べると日本人は“甘え”が見られるし、よくその点を指摘されることが多い。当然のことながら、そのようなことは一概には言うことができない。人は千差万別にて、またその人における環境も条件も、勿論大学も様々であるから。そして留学生においても同様である。全ての留学生がそのような『強さ』を持っているとは断じて思わない。ただ、個人的に“ぬるま湯”とも言うべき環境下で生きてきた私にとって、総体的に見るとそのように感じざるをえなかった。だから、もし機会があって、私が出会ったような人々と話すことがあれば、全く同じことを感じないにしろ、少なからずそのようなことを感じ

るだろう。そして、学ばなければならないのではないか。

追記として、一般的に留学生の多くは日本文化に関心を抱いているが、大半の日本人はその多くを知らない。例えば茶道に関して、どれほどの知識を持っているだろうか。それは果たして、日本の文化紹介と言えるほどのものか。今は日本人以上に留学生の方が学ぼうとしている者が多く、私に日本文化の素晴らしさを改めて教えてくれた。またそれは同時に、古く聞こえるが「愛国心」を呼び起こす。「日本国」を、「日本人」を認識させた。その時、本当の意味で初めて自国を知ることによって、他国を知ることができたと思っている。しかし、その日本を心から好きになってくれる人は一般に思っているほど多くないように思われる。それは、習慣、風土、社会、人間関係などの様々な面において合わないからだろう。本当に残念ではあるが、留学生は私に多くのことを学ばせてくれた。このような異文化交流が日本人にとっても留学生にとっても多くなれば、と心から願っている。

最後に今から日本に来る人へ「日本には多くの可能性がありますから、それは経済面に関するものだけではなく、様々な素晴らしいところがありますから、是非とも学んでみてください。そして少しでも日本を好きになってください」。そして日本を去る人へ「日本で学んだことに一つも無駄はなかったと思います。この経験を元に将来活躍できるように、また皆さんの人生を素晴らしく彩るように心から願っています。そしてまた機会があればどうぞ…」

ー顔ー

福井大学大学院工学研究科博士前期課程
ZHAO、XI（趙習）（中国）

“お客様、すみません、箱にリボンをおつけするのを忘れてしまったのです…”私を追いかけ、息をきらしている彼女の姿を見た瞬間、私は胸がいっぱいになった。“あー福井のサービスっていいなぁ”、と思わず口から言葉が出てしまいそうになった。「こんなことは日本で普通だよ」とこちらに住んでいる友達に言われた。しかし、この出来事は私にとって、とても印象深いものだった。

そして、あれから毎年、福井から上海に帰るたびに、母国の変化に興奮させられる私には、何となくがっかりすることがある。それはどんどん移り変わる都市の顔、でもいつまでたっても変らない販売員の顔だ。関西空港と上海は飛行機で一時間半の極めて近い距離なのに、日本ではお客様に対する心配りを感じ、一方、中国では本当に無関心な態度が多い気がした。

中国はここ二十年で経済的に大きく飛躍した。上海のスーパーマーケットの広さ，商品の豊富さを見ていると、これが社会主義の国かと疑いたくなるほどだ。しかし、すでに日本では、もう当たり前と思われているサービスが、中国の販売員にはまだまだ理解されていないらしい。自分の働きで商品がどれぐらいの大きな価値をもたらすのかということを認識していない、と私はしみじみ感じた。化粧品メーカーの資生堂が値引きをしないまま、日本一のブランドとして生き続けてきたのは、資生堂の販売員と客の心の触れ合いが大きな役割を果たしたのではないだろうか。もし資生堂が横柄な態度の販売員に任せていたとしたら、どうなっていただろう。成功するサービスとは「客の心」を知るところから始まり、「モノ」を売るだけではなく、お客様に「満足」を売るべきだと私は信じてきた。

WTOに加入した母国がこれからの競争に耐えられるかどうか、国民は心配しているようだが、私はそうと思わない。中国には“良薬は口に苦し”ということわざがあり、この“苦い薬”を飲んでもらい、近いうちに、一時間半の旅をしても、母国の販売員も日本のように愛想のいい顔で迎えてくれるようになればいいなぁーと心から期待している。

韓国についてちょっとした解説

福井大学大学院工学研究科博士前期課程
LEE、HYUN JIN（李　賢眞）（韓国）

2002年は日韓共催のワールドカップという事で、テレビや雑誌などで韓国特集がかぞえきれないほどありました。韓国人の私も知らなかった事を詳しく教えてくれたので、私にとってもいい勉強になりました。「こころねっと」も例外ではなく、2002年秋号に韓国について載せる事になりましたが、原稿を書く私には大変な問題です。日本人は飽きるほど韓国について話を聞いているので、もう日本人に韓国について話をしても大して不思議なことはあまりないからです。という事で、今回「こころねっと」には韓国について説明するより、私がよく聞かれる韓国についての質問の答えと、数多くの韓国特集を読んだ人々が誤解をしていることについて“解説”と“言い訳”をしたいです。

1．韓国は辛い食べ物をいっぱい食べているから、皆スリムよね。

唐辛子のお陰でみんな痩せているイメージがあるけど、食べる量がかなり多いのでそれほど痩せていません。特に20,30代の男を比較してみると、韓国には太りぎみの人が多いです。韓国にいると、“お腹いっぱいで、死にそう”とよく言うし、よく聞きます。テレビで“食べすぎ、消化不良によく効く○○消化剤”などの消化剤のCMもいっぱい見られるし、薬局では気楽に消化剤を買って飲む習慣（？）があります。また、韓国では抗癌作用の優れたニンニクをいっぱい食べていて癌の発病率が低いのではないかと思われますが、刺激的な食べ物を食べ過ぎて胃癌の発病率は世界トップクラスらしいです。

2．毎日焼肉食べるの？

毎日焼肉を食べる贅沢な家はないですが、日本より気軽に焼肉を食べている感じがします。家庭では牛肉、豚肉などを味付けし冷蔵庫に保管してフライパンで焼いて、一品のおかずとしてよく食べます。もちろんこれは私の家の場合で、家によっても違います。日本の焼肉はたれを付けて食べますが、韓国は肉と野菜をたれに漬け込んだのを焼いて食べます。また日本は野菜をいっしょに焼きながら食べますが、韓国では葉っぱ類の野

菜（サンチュウ、ごまの葉など）に肉を包んで食べています。私の場合、焼肉を食べる時、野菜を肉の倍以上食べています。焼肉屋さんのテーブルを見たら肉より野菜の皿のほうが多いのは確かです。

3．整形した？

日本の友達にいきなり「李さんも整形した？」と聞かれたことがあります。突然の質問に驚きましたが、その友達が言うには、テレビで韓国の女の子は気楽に整形をしていると言ったらしいです。とんでもないことです！私の周りに確かに整形した友達、親戚がいるけど、ほとんどの人は生まれた時のままで生きています。それに誰かが整形をした事は我々にとってもビッグニュースになります。でも、私の身の回りに整形した日本人の知り合いはまだいない（私が知らないだけかも＾＾；）から、日本よりは整形した人が多いかも･･･

4．韓国人は愛国心がすごいね。

今回のワールドカップで周りの人からよく言われた言葉です。日本のマスコミから見た韓国人の姿は愛国心で燃えているように見えるけど、実際韓国人は母国に対し、かなり批判的です。特に政治や経済に対する不満はすごいです。政府は国民が母国に対してプライド、自信を持って欲しいので,テレビや新聞で“韓国･韓国国民、やればできる！”キャンペーンを続けています。だから韓国人は愛国心がすごいねと言われたら、私は笑うしかないです。韓国国内では、今回のワールドカップで“大韓民国建国以来始めて国民が一つになった。”と言っていました。

5．徴兵制があるんだって？！

韓国について話をしたら最後は徴兵制の話題になってしまいます。日本の若者は経験できない事だから、もっと興味を持って話を聞いてくれるからでしょう。韓国では男だったら軍隊に行ってこないと一人前にならないとよく言います。実際、徴兵が免除され

た人は健康に問題があるのではないかと疑われます。それだけでなく、男たちが集まったら十中八九が軍隊の話に流れていくので、免除された人は話の中にも入れなくなり、なんとなく寂しい思いをします。だからと言って、徴兵を喜んで待っている人は誰もいないです。軍隊に行く前は不安だし、行って来たら二度と行きたくないと誰もが言います。また、だらしない男の後輩は、先輩たちから「あいつを早く軍隊に入れて、苦労をさせろ。」とよく脅されます。徴兵制については私がここで話すより実際軍隊に行って来た人に話を聞くほうが面白いと思いますよ。

これら以外にもいろいろな誤解がありますが、また今度の機会に回します。韓国について理解できない事があったら、いつでも福井大学にいる韓国人留学生に質問してください。できるかぎりお悩みを解決してあげますから。

私の日本語学習方法

福井大学大学院教育研究科
Vdovina Elena Urievna (Russia)

私は日本語を勉強し始めて、もう7年間になりました。大学の時にも「もういいじゃないですか」と家族に言われたし、「お上手ですね」とよく日本人から聞きました。それを聞くと鼻が高くなって、自信がありました。

2年間半前に日本に留学することになって、初めて自分の貧しい日本語の最低基準を感じました。回りの人たちはすごく日本語が上手（もちろん、日本人は別）だし、私が教科書で習った日本語はだれも使わないし、泣くほど悔しかった。テレビなんかをつけると緊張して、知っている言葉を待つことばかりでした。

１年たってから、大学、また色々な友達のおかげで実際の日本語がだいぶ話せるようになりました。バイトも楽になったし、テレビもだんだんわかるようになりました。しかしそれから時間がたってももう全然うまくならないという気がして、どうすればいいのかしらと悩みました。大学で上級日本語授業を受けたり、テレビを見たりしても、期待していた結果がなかった。

やっと今は簡単な方法を見つけました。これは私と同じように悩んでいる人に教えたいです。それは色々な本ですよ。

バイトで知り合った人からいくつかの本をいただいて、「読んでみて」と言われました。最初に自分の研究のための時間がなかなか足りないと思って、無理かなと決心した。でも面白いテレビ番組よりひまの時間でも少し読めるし、わからなかったらまた読み直して、勉強になるとわかりました。

多くの留学生は日本語の本が大変だと思っているでしょう。私もそう思いました。漢字が多く、その読む日本語は実際に使わないだろうと思いました。もちろん、色々あるけど、私の日本語に役に立った本をいくつかを紹介したいと思います。

話す能力を身につけようと思ったら村上春樹に挑戦してみてください。雑学、ユーモアが好きな人、また長い小説が苦手な人にちょうどいいと思います。また大江健三郎の「自分の木の下で」という本を読んで、いろいろ勉強になりました。私が勉強している教育についても書いているし、読みやすくて、考えさせる本だと思います。歴史について書いてある本のなかでは司馬遼太郎が面白いけど漢字がいっぱいだから時間がけっこうかかります。

研究の本のほかにどんな本を読んでますか。面白い本を教えてね！

いっしょに日本語をがんばりましょう！

P.S. 最近戸泉米子さんの「リラの花と戦争」を手に入れて、私が住んでいる町の歴史などについて日本人から色々勉強になりました。自分の国の文化などについて外国人から習うことも大事だとわかりました。戸泉さんは日露友好協会長であって、福井に住んでいらっしゃいます。会えて、貴重な経験を得たと確信しています。本って不思議ですよね！

!Saludemos en español¡

福井大学大学院工学研究科博士後期課程
José Francisco Abarca Montoya (Honduras)

ホンジュラスは公用語がスペイン語ですが、スペイン語は世界中で約23ヶ国で話されている言葉です。スペインを始め、ラテンアメリカのほとんどで、そしてアメリカ合衆国でもよく使われています。わたしがアメリカの空港で乗換えをする時、空港の職員と話すのは、英語ではなく、スペイン語なのです！

さて、会話といえば、どこの国でも挨拶はその最初歩でしょう。よく使われている挨拶の中では、!Hola¡（オラ！）があり、「こんにちは」という意味で、朝から晩まで使えるのでとても便利でしょう。!Hola¡と挨拶される時に、答えも!Hola¡で構いませんが、通常、!Hola! ¿Qué tal?（オラ・ケ・タル）と答えます。これは「こんにちは。お元気ですか」という意味に当たります。

よく使う表現のもう一つは¡Gracias!（グラシアス）で、「ありがとう」という意味です。

朝、人に会う時も別れる時も!Buenos días¡（ブエノス・ディアス）を使い、「お早うございます」のことですね。そして、正午から日が暮れるまで ¡Buenas tardes!（ブエナス・タルデス） という挨拶を使います。¡Buenas noches!（ブエナス・ノチェス）は夜の挨拶で、会う時も別れる時も使います。ですから、日本語の「こんばんは」と「お休みなさい」の二つの働きがあるということでしょうね。これも人や地域によって違ってくることもあります。わたしは暗くならない限り¡Buenas tardes!を使いますが、ペルーの友達はそうではなく、7時になったら¡Buenas tardes!から!Buenas noches!に切り替えます。例えば夏にはいくら明くても¡Buenas noches!を使って、私としてはやはり何か妙な気持ちがします。これは決して間違っているわけではありません。それよりむしろペルーの方言上での使い分けでしょう。

さて、もうそろそろこの記事が終わるところにきていますので、¡Adiós!（アディオス）「さようなら」を言わざるを得なくなったようですね。映画のターミネターを見た人は覚えているかも知れません ¡Hasta la vista!（アスタ・ラ・ビスタ）「ではまた」。

福井を楽しもう！！！

福井大学大学院教育研究科　**Vdovina Elena Urievna** (Russia)

福井大学大学院教育研究科　**Ruick Petra** (Germany)

E　ペトラさん、ドイツから来て、懐かしいことがあるでしょう？

P　ありますよ。両親とか友達とか会えないから寂しいし、やっぱりドイツの生活がたまに懐かしい

E　でも、福井にもいっぱい友達ができたでしょう。どうやって遊ぶんですか

P　ダンスがとても好きです

E　本当ですか　どんなダンスするんですか

P　ブレイクダンス　福井にもブレイクダンサーがいることにびっくりしました
いっしょに練習して、イベントがあると踊る

E　すごいな、ブレイクダンスってなんか怪我っぽいですよね。私それは無理だけどラテンダンスなら何時間も踊れるんだよ。

P　ラテンダンスはいろいろあるけど何が好きですか

E　ブラジル人の友達といっしょに踊るとサンバ、またペルーの友達ならやっぱりダイエットになるサルサ

P　今度機会があれば教えてね、興味があるけど福井にラテンダンスを教える場所があると知らなかった

E　たけしさんが教えています。またSALSA　PARTYがあって、みんな楽しみます。来てね。私もせっかくだから一回ブレイクダンスやってみるかな　怪我っぽいな

P　そんなことない、やってみたら体がだんだん慣れるから大丈夫。先生がいないけど、駅の地下道などのところでやっています

E　みんな若いでしょう？

P　高校生が多い、最近女の子が増えてきています

E　じゃ、一回行っていいのかな、優しく教えてね！
P　エレナもSALSA　PARTYがあったら教えてね

福井って楽しいこといっぱいありますね。日本のダンス（よさこいなど）にも参加できるし、色々な国のダンスを習えます。知ってますか

留学生のみなさんへ

福井大学生協　食堂部

職員一同

いつも食堂をご利用いただきましてありがとうございます。

なかなかじっくり話し込む事もできませんが、少しでも御国の事や文化のことをお話できたらと思っています。

特に、その国の料理の事などを伺うことができますと、メニューとしてお出しすることもできます。

また、皆様からも「こんなメニューが食べたい」などと声をかけてください。「あれ美味しかったです」でも結構ですから。

皆様の中で、食堂を利用していない方も一度お越しください。メニューの名前が難しそうなら、プライスカードを上にあげていただければ、係りもすぐに分かりますのでお気軽にお越しください。

職員一同お待ちしております。

ポッファーチェス（オランダ料理）

福井大学教育地域科学部日本語日本文化研修生
Tim van Ingen (Netherlands)

材　料

小麦粉250ｇ　牛乳300ml　タマゴ1
イースト10ｇ　シロップ大さじ2
ほんの少しの塩　溶けたバター75ｇ　砂糖

必要とするもの

たこ焼きの金型　ボール

作り方

小麦粉をボールに入れて、真中にアナを開ける。あなの中にイーストの薄けた少しの牛乳を入れる。小麦粉の外側に塩をふり掛けて、真中からかき回す。かき回しながら、残りの牛乳、そしてタマゴの黄身とシロップをいれる。それから全部弱い火において45分ぐらいあたためる。

たこ焼の金型をバターで塗る。金型のアナの半分ぐらいまでミックスを入れて、ポッファーチェスの下側が乾いて薄茶色になるまで焼いてから、ひつくり返して両側にいい色がっくまで焼き続ける。

後は、ポッファーチェスを皿にのせて砂糖をタップリかけて真中にバターの小さいかたまりを溶かして、出来上がりです！

Eet smakelijk！（美味しく召し上がってください！

留学生在学状況

（2002年10月現在）

	学部学生		大学院生			研究生		科目等履修生 聴講生		合計
	教	工	教	工		教	工	教	工	
			修士	修士	博士					
インド							1			1
バングラディシュ				1	4					5
ミャンマー						1				1
タイ					1		2			3
マレイシア		20		2						22
インドネシア			1		4		1			6
フィリピン						1				1
韓国				1	4				3	8
モンゴル					1				1	2
中国	10	18	11	18	27	8	16	1	23	132
カンボジア		1								1
台湾					3				1	4
シリア					1					1
ブラジル					1		1			2
アルゼンチン						1				1
ペルー					1		1			2
ホンジュラス					1					1
ドイツ						2		2		4
ポーランド							1	1		2
ロシア			1							1
	10	39	13	22	48	13	23	4	28	200
				70						
	49		83			36		32		

帰国研修生からのメッセージ

Lim Kim Teck　林錦德（Malaysia　1970.4-1974.3 kt_lim28@hotmail.com ）

懐かしいな。福井大学。私は卒業してからもう28年経ちました。なんともいえない感想が胸いっぱいです。

去年クワラルンプルの日本大学教育展覧会で、中島教授とお会いしてとっても嬉しかった。福井大学の留学生のことがこんなに大きく展開がありまして、始めて分りました。非常に嬉しいことですね。特に留学生センターができまして、「こころねっと」第一号創刊も発行し,おめでとうございます。これから、この「こころねっと」の中で、お互いに益々大きく交流をしましょう。福井大学工学部留学第一号卒業生の私は全力サポートします。留学生の皆さん頑張ってください。

↑LEEさん

孫遜（中国　1994.10-1998.3 sunxun@pub.xaonline.com ）

福井大学での勉強は楽しかったです。また、各国からの留学生と福井大学の親切な先生と出会って私の財産となったと思います。「こころねっと」を読んで、留学生生活を思い出しました。もし、西安にこられるチャンスがあれば是非声をかけてください。

栄福年（中国　1994.8-1995.7 rongfunian@hotmail.com ）

中島先生：福井大学留学生センターからの手紙をいただいて、非常に嬉しかった。引越ししたため、お手紙が春節の直前に届いたのです。お返事が遅れてすみません。

私は1994年8月に聴講生として福井大学に来ました。福井大学での勉強はあんまり長くありませんが、私の頭にはいろんな印象が残っています。特に、多くの先生の学問に対する厳格さと真面目さが良い思い出になった。

私は今無錫の国家高新技術産業開発区管理委員会で人事管理の仕事をやっています。無錫の国家高新技術産業開発区は中国経済が発達している長江三角洲地区に位置しています。上海までの距離は120キロで、交通は便利です。ここは中国53の国家級開発区の一、総合実力は本局の第6位にあり、日本人企業家の投資が活発化しているところです。今までに、ソニー、松下、シャープ、日立、丸紅、ALPS，CMK，NIKKO等の会社がここに投資しています。無錫開発区は日本企業家の理想的な投資する所であると言えます。そして多くの投資者は無錫を自分の第二の故郷としています。

無錫は経済が発達し、景色の美しい都会です。多くの日本の友人は常にここに観光に来ます。「無錫旅情」という歌は日本人の間に大きく広がっています。福井大学の先生方や学生達は是非無錫に来てみてください。御大事に。

何平（中国　1993.4-1994.3 mathpinghe@sina.com ）

お陰さまで、博士（理学）学位を取得して、2001年5月の初めに国に帰ってきました。いろいろと考えており、同年の9月から復旦大学数学研究所にポスト・ドクターとして働いております。今後、機会があったら、打尾学の研究者、教育者として両国の学術交流について役に立ちたいと想います。

ブライアンM.ディフォー（USA　1991.10-1992.9 bmdefoe@tky.cornes.co.jp）

福井大学に留学した後、アメリカに帰国。ラットガース大学にて修士号を修得後、ニューヨークにてアメリカにある日系企業のために、損害保険ブローカーとして仕事をしていました。1997年に再度来日し、現在コーンズ・アンド・カンパニーという日本で一番古い外国資本の商社の（1861年創立。現在は日本資本の会社）保険事業部でマネジャーとして働いています。プライベートでは、3年前に結婚し、今は1児の父として子育て奮闘中です。（もうすぐ1歳になる男の子です）留学中につちかった日本語は日々の生活の上で大変役立っております。それ以上に文化交流を通じで得られた様々な経験は、私の中でかけがえの無い思い出、そして財産となっております。根気良く日本語を教えて下さった先生方、留学生の私を暖かく迎えてくださった方々に今ここで感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。次回の「心ネット」を楽しみにしております。

朱虹（中国　1996.1-1999.3 zhuhong@xaut.edu.cn ）

1993年3月卒業してから,ずっと中国の西安理工大学に勤めています。1995年5月西安理工大学の教授になった、研究領域は画像処理及び応用です。今7人の学部生,12人の院生が私の研究室で勉強しています。去年、谷口先生の学生、私の先輩と後輩一緒に谷口先生編著の「画像処理――基礎編」と「画像処理――応用編」二冊の本を翻訳して、もう中国の有名な出版社「科学出版社」より出版しました。三年間の福井大学生活では先生、学校と皆さんにいろいろお世話になりました。誠に感謝致します。今年、私の一人の学生も福井大学で勉強しに行きました。

Lee Chow Che（Malaysia 1995.4-1999.3 chowcheng-lee@hotmail.com）

卒業してから三年目になった今ですが、また皆さんと連絡することを楽しみにしています。よろしくお願いします。

劉　琦（中国 1989.10-1991.7）

こころネットを読んでから、十年前の福井での留学生生活を思い出した。先生の教え、同僚との友情などは、目の前に浮かんでいます。心から福井を私の第二の故郷と呼びました。ありがとう、福井大学留学生センター、ありがとう私の第二の故郷。

朴勝子（韓国 1990.4-1994.3 sujipark@hananet.net）

「福井大学から郵便物がきたよ」との実家の母親の声で、走っていったところ「こころねっと」が届いていました。嬉しかったです。今からおよそ13年前、1歳になる息子とお腹に二番目を身ごもったまま、大学に入学した時には果たして卒業できるだろうかと心配でしたが、たくさんの方に助けられ、励まされ無事卒業できました。良く、そんな無茶なことができたと今でも感心しています。

福井大学での勉強は素晴らしかったです。資料を探しに入った図書館の倉庫で感じていた「学問への猛烈な情熱」は今でも覚えています。

帰国してから映画の翻訳をしています。一つの字幕に数時間も悩んでしまうことがありますが、楽しく頑張っています。この「こころねっと」を通して、留学生同士のコミュニケーションが広がると良いですね。私を覚えている人はメールください。もちろん日本語もokですよ。

李東武（中国1999.10-2002.3）

いよいよ、就職活動のシーズンがやってきました、皆さん頑張ってください。

李密（中国 1997.10-1998.9 amyli0390@suba,cin ）

福井大学にいたときは清輝寮に住んでいたので、日本人学生との触れ合いを通じて日本の若者、日本文化に身近に接触できました。日本への理解を深めることと共に欧米、南米、アジアなどたくさんの外国人学生との交流も貴重な経験です。短い期間とはいえ、豊かな一年間でした。一生の楽しい思い出です。

呉少華（中国 1995.10-1998.3 shaohuaw@hotmail.com ）

わざわざ「こころねっと」を送っていただきまして、誠にありがとうございます。いただく度にいつも繰り返して何度も読みます。特にそちらに留学している知りあいや教え子の名前や写真が出たら、とても懐かしいです。時々今の学生達にその先輩のことや福井大学のことを紹介すると、学生達も日本からのメッセージとして「こころねっと」を興味深く読んでおります。福井大学のご発展と「こころねっと」のご活躍を心からお祈りします。

王燦星 Wang Canxing

(China 1998.10-1999.9, mecwangcx@cmee.zju.edu.cn)

I am very glad to receive this registration form and wish that I shall become a member of Fukui University Alumni Society because I will know more of Fukui University. During the study in Fukui University, I learned much knowledge and skills in my major field, supervised by Prof. Fujio Yamamoto, and have pleasure times organized by Prof. Fujio Yamamoto and the officers of International Student Center. I would like to give my thanks to my supervisor, Prof. Fujio Yamamoto, and the officers of International Student Center, also give my best wish to Fukui University.

W. Bawm Chang (Myanmar 2000.4-2001.3)

こころねっとを送っていただき、ありがとうございました。帰国した留学生たちからのメッセージと今勉強しつづけている留学生の皆様の作文を読むことができて嬉しいです。いろいろな勉強になった福井大学にいつも感謝しています。下の写真は私の州カチン州の「マノウ」という文化踊り祭り（2001年12月25日～2002年1月2日まで8日間）のものです。

Fang Cuiluo (China, 1996.10-1997.3, fcl121@sina.com.cn)

As same as other kinds international exchange/cooperation, こころnet's building needs to understand the real meaning in different culture behind word (s) / sentence (s) themselves. 本当のkokoronetができるよう、心よりお待ちしております。

Salihen Saleh (Malaysia 1990~1996, salihen@tracetec.com.my)

Wow. It was my first time to receive a very good information from Fukui University. Currently, I just go into Fukui University homepage but not much information regarding the foreign student. By sending the こころねっと to all ex-students, it will make a good step to create more information in it. Congratulation to all the staff who initiate this project.

Victor Garcia (Mexico, 2000. 4-2001. 3, vicoy69@hotmail.com)

HOLA! I'm so happy to have belonged to Fukui Daigaku. I came back this year! My best season in my life has been in Japan. Sometimes I dream about university, my friends and my teachers. I take this chance to say hello to all the people all over the world, specially all those who share with me a great time in Fukui.

Nicolaie Pavel (Romania,1996.9~1998.4, pavel@ims.ac.jp)

Studying at Fukui University was a effervescent period of my life! It was the period I learned so many things about my job, what I am gone do in this life, who am I and what I have to do in order to be pleased and content about me.

Getting in contact with Japanese nature and people, accommodating to their language and customs helped me a lot ! And even I have so many questions to find an answer for, part of my life started at Fukui University.

I just want to say THANKS! to all the people (Japanese and foreigners, as well) I had around and I hope I can meet few of them through the Kokoroneto magazine.

孫維才 (中国 1995.4-1996.3)

母校の福大からの手紙を読んで親しく懐かしく想っていました。福井は本当に懐かしい所ですよ。旧い友人、先生がた、それに桜通り、永平寺、東尋訪、越前海岸などの名所、とても深い印象でした。

帰国留学生のe-mailアドレス

張敏蓉（中国1992.4-1996.3 zmr1963@21cn.com ）

姚秉華（中国1993.10-1998.2 bhyao@xaut.edu.cn ）

Kim Jin Seung 金鎭勝（Korea 2001.10-2002.9 kjs1126@hotmail.com ）

Jung Ho Yun 鄭淏允（Korea 2001.10-2002.9 jhy0524@hotmail.com ）

Felix Morales Bello （Mexico 2001. 4~2002. 3, fexixmb@hotmail.com）

Tim van Ingen （Netherlands2001.10-2002.9 amazingu@yahoo.co.jp ）

その他、下記の方から同窓会登録用紙を受け取りました。ありがとうございます。

肖梅潔（中国1994.4-1995.3）

Antje Stock（Germany 2001.10-2002.9）

王杭祥（中国2001.10-2002.9）

編集後記

留学生国際フォーラムを機に地域社会との相互交流支援活動は軌道に乗りつつある。
来年度は日本人学生との交流、帰国留学生との交流に力を入れようと思う。
この冊子がその役割を果せるよう編集委員一同考えていきたい。
読者諸氏からの意見・アイディアをお願いしたい。
来年度は福井医科大学との合併が予定され、活動範囲を拡大する転機にもなるだろう。

編集長　長谷川守男留学生センター長

編集委員　朱五星（中国）　趙群（中国）　李賢眞（韓国）
Shahjahan MD（バングラデシュ）　Nor Salmy Binti Ahmad Taib（マレイシア）
Stock　Antje（ドイツ）Lina　Hng（インドネシア）
Vdovina Elena Urievna（ロシア）　Van Ingen Tim（オランダ）
Ruick Petra（ドイツ）Ehrhardt Anelise（ブラジル）
Abarca Montoya Jose Francisco（ホンジュラス）　李運生（中国）
中島清（留学生センター）

表紙　国際交流キャンプ（留学生28名、日本人学生12名）
2002年8月9日＆10日、越前越廼海岸及び国見岳

福井大学留学生センターニュース **「こころねっと」** 2002年秋号
2002年11月30日発行

発行　福井大学留学生センター
〒910-8507 福井市文京3丁目9番1号
International Student Center, Fukui University
3-9-1, Bunkyo, Fukui 910-8509, Japan
Tel 0776-27-8903　Fax 0776-27-8903
E-mail: knaka@anc.anc-d.fukui-u.ac.jp
http://www.anc-d.fukui-u.ac.jp/kokoronet/